

○上山 恵子*、坂本 裕子**、三好 正満*

(*奈良女大、**龍谷大短大部)

【目的】高齢者の寝たきりの原因の一つに、骨粗鬆症等による骨折が挙げられる。今回我々は、地域に在住する男性及び女性高齢者を対象に、骨強度と生活要因の関連を調査し、生活習慣の違いによって影響される関連因子の男女間における差異について検討した。【方法】2000年9月、奈良市内に在住する、日常生活が自立している60歳以上の男女192名を対象に実施した。調査内容は、超音波測定装置を用いた踵骨の骨強度(stiffness)及びインピーダンス法による体脂肪率の測定と、体格、身体状況、食生活・運動等の日常生活習慣、家事・社会活動の内容・時間等について聞き取り調査を行なった。解析には性別と年齢による影響を少なくする為、同性・同年齢健常者における stiffness の平均比較値である Age Matched Stiffness (%) (以下 AM 値)を用い、男・女群及び AM 値の上・下位群における特徴を分析した。【結果】男性の AM 値の平均は 94.0 ± 16.0 (n=53)、女性は 91.6 ± 12.7 (n=139)であった。AM 値と有意に相関を示した項目は、社会活動時間項目(男性群)、体格・家事時間・肉及び豆腐摂取頻度(女性群)であった。次に AM 値 100 以上を上位群、99 以下を下位群とし、t 検定とカイ 2 乗検定を用いて上・下位群を比較した結果、男性では社会活動時間で、女性では体格・牛乳・乳製品・家事時間等で有意差がみられた。さらに生活要因の特徴を総合的に検討する為、各ノンパラメトリック項目に得点を与え、数量項目と共に規準化し、全項目を 10 グループに集約し比較した。男性では社会活動時間・日常活動・運動等、身体活動を主とするグループ項目において上位群の得点が高かった。女性ではそれらに加え、牛乳・乳製品・その他食品等、栄養摂取に関連する項目でも高い得点を得られ、男女間の要因の違いが明確になった。